

本年度全国選抜小学生プログラミング大会福井県大会(福井新聞社、全国新聞社事業協議会主催)の最終審査がこのほど行われ、最優秀賞の福井新聞社賞に森川煌月さんと武澤俊甫さんの福井市円山小5年生ペア「らしいゆんプラザーズ」が選ばれた。ごみ収集日を知らせるプログラムを作った2人は、「難しい部分もあったが1番上の賞がもらえてうれしい」と喜んだ。(黒田美紗)



福井新聞社賞を受賞した「らしいゆんプラザーズ」の森川さんと武澤さん。7日、福井市長本町のMOCCONE

### 小学生プログラミング県大会

## 森川、武澤さんペア(円山)頂点

### ごみの日表示と音で伝え

### 3月の全国大会へ

児童がプログラミングで独自のソフトウェアを開発し、発想力や表現力、技術力を競う大会。作品と動画によるプレゼンテーションで審査した。7日、2人が通う同市長本町の教室「MOCCONE」で表彰式を行った。

「ゴミの日お知らせ」と題した2人の作品は、スタートボタンを押すと日にちと曜日、どの種類のごみを出す日なのかを教えてください。画面に表示されるだけでなく、音声で読み上げる機能も付けた。2人は燃えるごみに燃えないごみ、プラスチック製容器包装など、ごみ収集日が細かく分けられている

開かれる全国大会で、プログラムについて発表する。「緊張はしていない。楽しみたい」と話した。最優秀賞以外の入賞者は次の皆さん。▽優秀賞 山岸愛奈(南中山小6年) 井上峻(松原小6年)

ことに注目。「特にお年寄りには『今日は何日? 何のごみの日だった?』と思うことが多い。簡単に分かるものがあれば」とアイデアを練った。2人の考えを基に、指導するMOCCONEの竹内志津世さんがフローチャートを作成。プログラミング教材「SCRATCH」(スクラッチ)を使い、約2カ月かけて開発した。

森川さんは「プログラムを間違えたときにどう修正したら動くか、考えるのが大変だった」と振り返り、武澤さんは「高齢者の人に利用してもらえたらうれしい」と笑顔を見せた。2人は3月2日に東京で